

施策14	スポーツを楽しめる環境の充実	主管部長(課)	地域振興部長(スポーツ振興課)
		関係部長(課)	

1 施策目標

江東区の目指す姿

こどもから高齢者まで世代や障害の有無にかかわらず、身近にスポーツを楽しめる機会と環境が確保され、スポーツの持つ力により、誰もが生き生きと暮らせる地域社会が形成されています。

施策実現に関する指標(代表指標)

指標名	単位	現状値 (6年度)	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	目標値 (11年度)	指標担当課
週1回以上スポーツ・運動を行う区民の割合	%	49.5	53.8					70	スポーツ振興課

* 前期計画時の指標 元年度:45.1、2年度:59.0、3年度:58.8、4年度:61.5、5年度:62.0

指標選定理由		区民がどれくらいスポーツに親しんでいるかを客観的に示す指標であるため							
分析	達成度	◆7年度は週1回以上の運動実施率は4.3ポイント増加しており、区民アンケート調査結果によると、全く運動をしていない区民の割合も減少している。また、スポーツ・運動を行う頻度は「週3日以上」の割合が一番高い。							
	3 (概ね順調)								

施策コストの状況

種別	7年度予算	7年度決算(速報値)	8年度予算	9年度予算
トータルコスト	5,835,541千円	5,264,835千円	4,245,466千円	0,000千円
事業費	5,694,585千円	5,144,691千円	4,094,258千円	0,000千円
人件費	140,956千円	120,144千円	151,208千円	0,000千円

《参考》施策を取り巻く状況(社会状況/国・都の動向)

◆令和4年3月、国は第3期「スポーツ基本計画」を策定し、今後、成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%(障害者は40%)になることを目指すこととしている。
◆令和4年1月、都は「TOKYOスポーツレガシービジョン」を策定し、東京2020大会で得た成果を今後のスポーツ振興に活かすため、都立スポーツ施設の戦略的活用やパラスポーツの振興などを掲げている。
◆世界陸上競技選手権大会・デフリンピックが2025年に東京で開催され、都は令和8年1月に、東京都が目指す姿を「ビジョン2025 レガシーブック」にまとめ、「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現を目指している。
◆令和7年3月、都は新たな「東京都スポーツ推進総合計画」(令和7年度～12年度)を策定し、更なるスポーツ推進に向けた基本方針や施策展開の方向性を示している。

2 施策目標の達成に向けた具体的な取組方針

取組方針1	区民のスポーツ活動の促進	
	主な取組	気軽にスポーツに取り組める機会の創出
	取組内容	◆ファミリースポーツチャレンジやシーサイドマラソン大会等のスポーツイベントの一層の充実を図り、スポーツに親しむきっかけづくりやスポーツを通じた交流の促進に取り組む。 ◆8年度も引き続きパラスポーツ体験会を実施するなど、障害者スポーツへの理解を深める機会を提供する。
	主な実施事業	区民スポーツ普及振興事業、江東シーサイドマラソン事業、スポーツ推進委員活動事業
取組方針2	スポーツをしやすい環境の整備	
	主な取組	安心して利用しやすい施設整備・改修
	取組内容	◆老朽化が著しい東砂スポーツセンターにおいては、バリアフリーの視点を取り入れ、障害者や高齢者も利用しやすい施設への改修を図るとともに、設備の充実や利便性の向上も図ることで、誰もがスポーツに取り組みやすく、楽しむことができる環境の提供に取り組む。
	主な実施事業	スポーツ施設管理運営事業、少年運動広場維持管理事業

3 取組方針の実施状況

取組方針1	区民のスポーツ活動の促進	主管部長(課)		地域振興部長(スポーツ振興課)						
		関係部長(課)								
・こどもから高齢者まで世代や障害の有無にかかわらず、区民がスポーツ活動を楽しめるよう、スポーツイベントやスポーツ教室の開催など、スポーツに親しむきっかけづくりを推進します。 ・障害者スポーツに対する理解促進を図り、障害者のスポーツ活動を促進します。 ・スポーツ団体との連携を図るとともに、区民がスポーツ観戦等スポーツと多様な関わりができるよう、取り組みます。 ・ソフト面における東京2020 オリンピック・パラリンピックおよび東京2025デフリンピックのレガシーを活用し、区民のスポーツに対する意識向上を図ります。										
指標										
指標名		単位	現状値 (6年度)	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	目標値 (11年度)	指標担当課
週1回以上スポーツ・運動を行う障害者の割合 *後期計画からの指標		%	48.8	49.6					50	スポーツ振興課
指標選定理由		障害者がどれくらいスポーツに親しんでいるかを客観的に示す指標であるため								
分析	達成度	◆一定数のスポーツ実施率は見られるが目標値には達していないことから、障害者に対する運動の理解促進を図り、障害の程度に応じて気軽に参加できるスポーツイベントの機会提供を進めていく。								
	4 (順調)									
指標名		単位	現状値 (6年度)	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	目標値 (11年度)	指標担当課
年1回以上スポーツ・運動を行う区民の割合 *後期計画からの指標		%	70.8	72.2					95	スポーツ振興課
指標選定理由		区民がどれくらいスポーツに親しんでいるかを客観的に示す指標であるため								
分析	達成度	◆区立スポーツ施設や高齢者施設などにおいて、スポーツイベントやスポーツ教室を開催し、スポーツに親しむきっかけづくりを区民へ提供していく。なお、様々なスポーツイベントの情報を区民へきめ細かく広く周知していく。								
	3 (概ね順調)									
取組コストの状況										
種別		7年度予算	7年度決算(速報値)	8年度予算		9年度予算				
トータルコスト		181,475千円	159,897千円	191,038千円		0,000千円				
事業費		88,942千円	81,025千円	91,774千円		0,000千円				
人件費		92,533千円	78,872千円	99,264千円		0,000千円				
成果と課題										
◆ファミリースポーツチャレンジや区民まつりににおいて、スポーツ推進委員や地域スポーツクラブなどと連携し、スポーツに親しむきっかけづくりに取り組んでいく。 ◆7年度は日本で初めて開催されたデフリンピックの機運を捉え、デフスポーツの体験型イベントの開催や競技観戦バスツアーを開催し、デフスポーツに対する理解の醸成と普及振興に取り組んだ。今後も高まった機運を逃すことなく体験型イベント等を開催し、普及振興に取り組んでいく。										

取組方針2		スポーツをしやすい環境の整備				主管部長(課)		地域振興部長(スポーツ振興課)			
						関係部長(課)					
・区立スポーツ施設や設備の充実、利便性の向上を図り、誰もがスポーツをしやすい環境整備に取り組みます。 ・ハード面のレガシーである東京2020 オリンピック・パラリンピック競技会場等の都立スポーツ施設等と連携するとともに、各施設の有効活用を図ります。											
指標											
指標名		単位	現状値 (5年度)	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	目標値 (11年度)	指標担当課
区立スポーツ施設の利用者数		千人	1,767	1,744	1,741					2,550	スポーツ振興課
* 前期計画時の指標 30年度:2,424、元年度:2,037、2年度:960、3年度:1,086、4年度:1,496											
指標選定理由		区立スポーツ施設や設備の充実、利便性の向上など、スポーツのしやすい環境の整備に向けた区の取り組みに対する効果を示す指標であるため									
分析	達成度	◆夢の島競技場やスポーツ会館の改修工事の影響を受けたものの、区立スポーツ施設全体の利用者数はほぼ前年並みを維持している。									
	*										
指標名		単位	現状値 (5年度)	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	目標値 (11年度)	指標担当課
区立スポーツ施設の利用者満足度		%	90.9	90.5	90.9					95	スポーツ振興課
* 後期計画からの指標											
指標選定理由		区立スポーツ施設の利便性の向上など、スポーツのしやすい環境の整備に向けた区の取り組みに対する効果を示す指標であるため									
分析	達成度	◆利用者満足度は微増であったが、区立スポーツ施設の改修や設備の充実、利用者アンケートに基づく利便性やサービス向上などの取り組みにより、指標値の向上を目指していく。									
	4 (順調)										
取組コストの状況											
種別		7年度予算	7年度決算(速報値)		8年度予算		9年度予算				
トータルコスト		5,654,066千円	5,104,938千円		4,054,428千円		0,000千円				
事業費		5,605,643千円	5,063,666千円		4,002,484千円		0,000千円				
人件費		48,423千円	41,272千円		51,944千円		0,000千円				
成果と課題											
◆引き続き区立スポーツ施設の計画的な改修等により、誰もがスポーツをしやすい環境を整備していく。											
◆7年度に初級者エリアを拡張・充実させた夢の島スケートボードパークの更なる利用者獲得に取り組んでいく。											
◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場となった海の森水上競技場や有明アリーナ、7年度に開業した有明アーバンスポーツパーク・辰巳アイスアリーナなどのレガシー施設と連携し、スポーツ環境の更なる充実を図る。											
◆老朽化が進行しているスポーツ施設については、関係機関と連携を密にし、速やかに対応方法を検討していく。											

4 一次評価《主管部長による評価》

総評	◆様々なスポーツ団体と連携し、また施設の適切な改修を行うことによりスポーツに触れる機会の提供に取り組んだ。
今後の方向性	◆第3期スポーツ推進計画に基づき、各種スポーツ教室などの開催により、区民がスポーツを楽しめる環境を充実させていく。また、パラスポーツ体験会などを通じてパラスポーツに親しむ機会も拡充し、障害に対する理解の醸成を図るなど、計画の着実な遂行を図っていく。 ◆令和8年度に策定するトップスポーツチーム連携協定ガイドラインに基づき、トップスポーツチームとの連携により、区民スポーツの普及振興と地域の活性化につなげる。 ◆2026年に愛知・名古屋(一部東京)で開催されるアジア・パラ競技大会などの機運を捉え、スポーツへの関心をさらに高めていけるよう取り組む。